

中学校国語の説明文との違いを明示する高校国語の評論の導入

- 1 科目名 国語総合（現代文分野）
- 2 単元名 評論（一）
- 3 教材名 鷲田清一「他者を理解すること」ということ
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>① 単元の目標</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ア</td> <td style="padding: 2px;">中学校の説明文と高校の評論の違いを理解している。</td> <td style="padding: 2px;">（知識・理解）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">イ</td> <td style="padding: 2px;">常識と筆者の主張とを比較しながら読解している。</td> <td style="padding: 2px;">（読む能力）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">ウ</td> <td style="padding: 2px;">人間関係の複雑さ、不可思議さに対して興味を持とうとしている。</td> <td style="padding: 2px;">（関心・意欲・態度）</td> </tr> </table> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校入学者にとって、高校国語で扱う評論文は分かりやすいものではない。その内容の理解に一定の知識を必要とする上、語彙が抽象的であり、論理展開も複雑であるためだ。しかし、それ以上に、中学校国語で扱ってきた説明文との違いが明示されないまま授業が始まること、入学期の生徒を戸惑わせるのではないか。説明文の内容は世間常識から大きく逸脱することは少ない。察しのいい生徒にとっては題名を見ただけで書かれている内容がおおよそ予想できてしまう。ところが、評論は評論家が世間の常識に挑戦して独自の知見を披瀝するものであり、書かれ方も逆説的である。これを中学校国語と同じ姿勢で読解しようとする、予想と全く違った内容に戸惑ったり、常識の範囲内で理解しようとして誤解したりすることになる。そのために高校国語に無用の苦手意識を持ってしまう者もいるだろう。本指導案は高校最初の評論単元の導入で、中高の違いを明示することを提案するものである。 ・本単元の内容は、「他者の理解」とは何かについて、常識を裏返ししながら論じた、典型的な逆説である。この授業の導入として、短くて要旨の明確な文章によって、中学校の説明文との違いを体感させることとした。授業を進めるに当たっては、中学校までに身に付けた言語活動の力を活用する。生徒のイメージする「説明文」のあり方を相対化し、それとは別の文章の在り方を実感させたい。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマについて、空欄を埋める形で作文をする。これを周囲と交流して、自分の考えが常識的、一般的なものであることを実感する。その上で、高校で扱う評論が同じテーマをどのように論じているのかを読み、中学校国語の説明文と高校国語の評論の違いを理解する。 ・本単元が説明している「他者の理解」について、常識的な考え方と、筆者独自の考え方が比較されているという展開を予測しながら、読解を進める。特に逆接の接続助詞に注目する。 ・自宅学習として、内容理解に関するプリントを解答して持参し、自分の解答と周囲の解答とを比較しながら、国語の問題に答えるための基本姿勢を理解する。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入の活動 連想ゲームを行い、ある言葉からオートマチックに想起されるイメージには、誰にも似たような傾向があることを確認する。 上記の③に示したテーマ作文を通じて、中高の違いを実感する。 ・単元途中の課題 自宅学習で実施したプリントの解答を周囲と交流し、どのようにしたらその解答になるのか、自分の解答の過程を自覚する。その上で、問題が求めている解答の姿勢を理解し、身に付けるように心掛ける。 ・言語知識にかかわる課題 入門期であるため、国語辞典の引き方と、調べた語彙を読解に活かす方法について、体験的に理解させる。 ・出口の課題 「他者の理解」について、「違いを思い知らされることこそが本当の理解だ」という筆者の 	ア	中学校の説明文と高校の評論の違いを理解している。	（知識・理解）	イ	常識と筆者の主張とを比較しながら読解している。	（読む能力）	ウ	人間関係の複雑さ、不可思議さに対して興味を持とうとしている。	（関心・意欲・態度）
ア	中学校の説明文と高校の評論の違いを理解している。	（知識・理解）								
イ	常識と筆者の主張とを比較しながら読解している。	（読む能力）								
ウ	人間関係の複雑さ、不可思議さに対して興味を持とうとしている。	（関心・意欲・態度）								

主張を、自分の経験を例に使用しながら文章を書く。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①人間関係の機微について興味関心を持って文章を読もうとしている。 ②「他者の理解」について自分の経験を元に文章を書こうとしている。	観察（机間指導） 点検（学習プリント、ノート）	書きあぐねている生徒には、質問をして口頭で考えを言わせ、授業者がメモをとったものを渡して援助する。
知識・理解	①中学校の説明文と高校の評論文の違いを理解している。 ②高校国語の解答方法を理解し身に付けている。	観察（机間指導） 指名による確認 確認テスト	理解していない生徒は個別に指導を入れて説明する。 追加のテストを行う。
読む能力	①常識と筆者の主張との違いに着目しながら、文章の内容を理解している。	観察（机間指導） 指名による確認 点検（学習プリント、ノート）	学習プリントに指示を書き込んで問題点を指摘した上、必要に応じて個人指導を入れる。 生徒相互の活動に積極的に参加するよう促す。

成果と課題

①国語総合を現代文・古典の分野別に担当者を分ける学校においては、現代文分野の時間数が少なくなる傾向にある。こうした状況下では効率的な理解を可能にする仕組みが必要となる。評論に対する気構えを最初の段階で作り、あるべき読みの姿勢を身に付けさせることは、3年間の国語科授業を円滑に進める上で効果があると考えられる。

②評論の骨組みを簡単な形で理解することは、後に小論文を書いたり、論理的な思考や表現を行ったりする場合の型を手に入れることにつながる。特に、情緒的な表現に流れる傾向のある生徒にとっては、筋道を立てて明確に伝えられるようになるための援助となり得る。

③中学校の説明文とテーマを同じくしながら、内容が異なる短い評論をストックしておき、単元が終わるごとに比較して読解させる授業がドリル的に展開できると、中高の違いがより明確になる。このほかにも、その学校の国語科の財産として、初期指導の手法と素材を共有しておくことは大切である。

④中高のギャップとしては、本指導案で示した内容の違いよりも、授業手法の違いの方が生徒の不応をを引き起こす重要なものである。目的と学び方を明示し、活動的に展開する授業に慣れてきた生徒にとって、高校の講義主体の授業は耐え難いものであることを知っておき、導入期においては中学校までの教育が身に付けさせた活動的な学び方を踏襲することが望ましい。ただし、その後、段階を踏んで、高校、更に大学の講義への耐性を身に付けさせる必要がある。中高の間のギャップに配慮したスタートをした場合、そうした移行をどのように実現していくかについては更なる研究が必要である。

アドバイス及び留意点

①生徒が入学までにどのような単元を学習してきたのか、中学校3年分の教科書を確認しておくことよい。全員が学習してきていると思われる単元と同じテーマを扱う評論文が国語総合の教科書にあれば、それを優先して授業してもよい。

②本指導案では、寺田寅彦「科学者とあたま」を利用したが、文章が古く難解な語彙が含まれるという弊がある。逆説が典型的に現れている評論の概要をまとめた、言葉遣いの易しい文章を作っておき、これをもとに授業をするという方法も考えられる。

③この授業は中学校の説明文を否定するものではないことに留意する。生徒には中学校国語の価値の高さを確認し、その上に高校国語の力を積み上げるのだということを納得させなければならない。

小中学校との系統性

①(中学・2年・C読むこと)
ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。

②(中学・3年・C読むこと)
イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てること。

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1 (本時)	○「説明文」と「評論」の違いを理解する。	・連想ゲーム ・「科学者とあたま」をテーマにした作文の作成【B指イ】 ・寺田寅彦の随筆を読み、逆説の論法について理解する。【C指イ】 *作文の形式については、生徒の実態に合わせて、自由に書かせるか、ワークシートに記入させるかを決定する。	説明文と評論の違いを理解している。【理】 ↓ ノートチェック	ノートへの書き込み 個別指導 ↓ 再度説明
2	○「他者の理解」について常識と筆者の主張の違いを読み取る。	・本文の通読 ・意味段落分け【C指イ】 ・第一段落から逆接を手がかりに常識と筆者の主張を比較し、違いを理解する。【C指イ】 ・授業プリントの配布 次時の提出を指示 *意味段落分けはあまり深入りしないで、授業者の都合に合わせて行えばよい。 *前時の内容を受けて、「常識」対「主張」という図式を生徒に常に意識させながら授業を進める。その際に、逆接の接続詞に注目することの有効性を強調する。	常識と主張の違いを読み取れている。【読】 ↓ 観察(交流の様子) 発問への応答 学習プリントの確認	生徒同士の相互確認 個別指導 ↓ 再度説明 指名による確認
3	○筆者の述べる「納得」とはどのような意味か、理解する。	・本文の通読 ・具体例と主張の関係を理解する。【C指イ】 ・授業者が追加した具体例を参考に、筆者の「納得」について理解する。【C指イ】 *追加する具体例については、事前に行ったアンケートを参考に生徒の興味に即したものを準備する。	筆者の述べる「納得」について理解できている。【読】 ↓ 観察(交流の様子) 発問への応答 学習プリントの確認	生徒同士の相互確認 個別指導 ↓ 再度説明 指名による確認
4	○筆者の述べる「他者の理解」について理解したことを文章にする。	・本文の通読 ・「聞くことによって違いが明らかになる」という内容について話し合う。【A指ア】 ・自分の経験から具体例を挙げて、本文の内容を文章にまとめる。【B指イ】 *挙げさせる具体例については、生徒の実態に合わせて、可能なら最終段落に登場した国際問題の例を求める。	本文の内容を自分の経験に照らしてまとめている。【書】 ↓ ノートチェック	ノートへの書き込み ↓ 注目すべき作品をプリントして配布

6 第1時の学習指導案

本時の位置	1 時間目 (全4時間)		
本時の学習目標	ア 与えられたテーマに関して、自分の考えを文章化することができる。(書く能力) イ 説明文と評論文の違いについて、活動を通して理解できている。(知識・理解) ウ 授業者の示す言語活動に対して意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)		
事前の準備	①最初の授業のアンケートで、生徒が中学校までに学んだ国語の実態を把握しておく。 ②テーマに対する生徒の回答の予想を立て、ある程度の対処ができるようにしておく。 ③ゲームに使用するホワイトボードまたは紙とペンを用意しておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 10分	□グループで連想ゲームに取り組む。	①4人程度のグループになり、回答を掲げる担当の生徒を決める。 ②授業者の示す言葉から連想される言葉を短い制限時間内に話し合って一つに決め、授業者の合図で一斉に掲げる。 ③グループの回答がクラス内で一般的なものだったか独自なものだったかを確認し合う。 ↓ あるテーマについて頭に思い浮かべることは誰でも似たような常識的なものになる傾向があることを確認する。	・必要に応じてグループの構成に配慮する。 ・代表を決めさせてボードとペンの受け渡しを効率的に行う。 ・展開に示した内容をいきなり始めることが可能な集団に対してはゲームを省略 目標ウに対する評価規準と評価方法 [規準] ・積極的に参加し、発言をしている。 [方法] ・観察(机間指導) [状況Cの生徒への手立て] ・個別に参加を促す。

			<ul style="list-style-type: none"> ・次時の参加状況によって個人指導。
展開 35分	<input type="checkbox"/> 知識の確認 <input type="checkbox"/> 本時の課題の確認	授業者の解説から、中学校の「説明文」が、高校からは「評論」に変わることを理解する。主要な課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中学校までの説明文と高校から扱う評論文とはどのように違うのか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の導入を省略した場合は、中学教科書を示しながら、履修した説明文の内容を思い出させて話し合わせる。
	<input type="checkbox"/> テーマ作文の作成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 板書で示す型 科学者はあたまが（ ）なくてはならない。 なぜなら（ ）。 たとえば（ ）。 </div> <input type="checkbox"/> 作文の交流 <input type="checkbox"/> 寺田寅彦「科学者とあたま」を読む。	①「科学者とあたま」という題名でノートに作文を書く。 ②型の必要ない者は自由に書き、書きづらい者は板書された型を埋める形で書く。 ①グループ内で書いた作文を読み合う。特に「あたま」についてどう書いたかを確認し合う。 ②何人かの発表を聞く。 ③「あたまがいい」「わるい」のどちらで書いたか、挙手をしてクラスの人数比を確かめる。 ①寺田が科学者のあるべき姿として「あたまがいい」「わるい」のどちらを主張しているかを確認する。 ②寺田がなぜ「科学者は頭が悪くなくてはならない」という非常識な言い方をしたのかを話し合う。 ③代表者が②についての意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団によってはワークシートを用意して記入させた方が効率はやい。本指導案では今後ノート中心に授業展開することを前提としている。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標Aに対する評価規準と評価方法 [規準] ・課題を理解した上で作文できている。 [方法] ・観察（机間指導） [状況Cの生徒への手立て] ・個別に課題の説明をし、選択肢を示して口頭で意見を言わせ、それを授業者がノートの端にメモする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・黙読にするか、代表に音読させるか、相互に読み聞かせをさせるかは、集団の実態によって判断する。 ・発表が終わった段階で席を戻させる。
まとめ 5分	<input type="checkbox"/> 説明文と評論の違いを理解する。 <input type="checkbox"/> 本時の課題について理解したことをまとめる。	①授業者の解説を聞き、指名に応じて発問に答える。 ②「逆説」という言葉の意味を理解し、自分の語彙とする。 「説明文と評論の違い」について理解したことをノートにまとめる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] ・説明文と評論の違いを理解できている。 [方法] ・ノートチェック [状況Cの生徒への手立て] ・必要に応じ次時以降に再度説明 ・個別に呼んで指導を入れる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時から、逆説を念頭に置きながら、最初の評論教材の読解に入ることを予告し、下読みを指示する。